

## 日本一のいも掘り広場 ～千葉県香取郡大栄町～

千葉県農業総合研究センター 猪野 誠

このイベントは、大栄町役場による「21世紀村づくり塾」から生まれました。これは、町おこしにつながる企画を町民から提案するもので、サツマイモ農家有志グループの発案です。大栄町には成田空港の関連企業や宅地が少しずつ増えていますが、まだまだ純農村地帯といえます。夏になると一面のサツマイモ畑が続きます。イモを使った加工施設がないのが残念ですが、やはりサツマイモでの町おこししかないと考えました。一人何株なんてケチなことせず、存分に掘ってもらおうという趣旨です。

「日本一…」とした理由は、

- ①大栄町は青果用サツマイモ生産量が全国一
- ②隣接する栗源町の「日本一の焼きいも広場」に対抗する意識
- ③1ヘクタール(1町歩)規模のいも掘り広場を計画したことです。

第1回は平成10年11月23日前後の3日間。11月23日は同町の「ふれあい祭り」(町民祭り)があり、その会場に隣接した畑で行いました。約30名の農家が実行委員となり運営しました。町からはPR用チラシやポスター制作と資金補助がありましたが、あくまで農家中心のイベントです。6月に約50アール(5反歩)の畑に農家が手分けして「ベニアズマ」の苗を植え付け、栽培管理しました。残念ながら、当初計画した面積の半分となりました。

こんな田舎に人が集まるか不安でしたが、出足は好調でした。県内や東京方面から高速を使ってきた家族連れが中心です。費用は一人500円で、5キロ入り段ボール箱を渡して掘ってもらうことにしました。

サツマイモ農家が一般消費者と接する機会はあまり多くない。まず、目の色変えてイモを掘る姿に驚かされる。子供なんてそっちのけでお母さんが先頭に立って掘るたくましさ。農家が数うね分ずつ、機械でつるを刈り、

マルチフィルムをはぎ取ってから、さあどうぞの合図もむなしく、お母さん達はフライングぎみ。次に畑から引き上げる姿に唾然とする。何と、段ボール箱にイモを立てた状態ではみ出している。まるでピラミッドのようだ。底が抜けないように二人で持っている。1箱で最高20キロの人も出現。まるで嵐に遭ったような初日を終えました。2日目の土曜日午前中にTBSラジオ「永六輔の土曜ワイド」のラッキー池田が駆けつけ生放送。その影響が大きく、午後と翌日は大勢の人が押し寄せました。予定していた畑が足らなくなり、急遽、隣のイモ畑を買い取ることにになりました。

平成11年も永六輔の生放送で幕を開け、出足好調。この年からは5キロをオーバーしたイモはキロ100円で売ることになりました。農家も慣れてきました。焼きいもや豚汁を無料で振る舞ったり、リピーターも含めて参加者も増加の一途をたどり、イベントとしてかなり定着してきました。

3日間の開催は、農家の負担も大きいため、平成13年からは11月23日の1日間のみとしました。また、平成15年から「ふれあい祭り」の会場が移り、単独開催となりましたが、盛況な模様です。

反省会では、昼間の出来事を肴に大いに盛り上がります。忙しさや嫌なこともあります。概ね、農家は充実感を味わっています。普段の農家同士の集まりとは違った雰囲気があります。「日本一のいも掘り広場」へは東関東自動車道の大栄インターからクルマで約15分。JR成田駅からバスで約30分。都会に近い割に田舎風景を存分に味わえる所です。

大人気のイベント〈大栄町〉  
「日本一のいも掘り広場」  
(毎年11月)

